翔陽高校の生徒の皆さんへ　ー校長メッセージー（６）（令和５年１２月２２日）

「叱られる」ことは「信頼される」ことへの第一歩

校長　博田　英明

皆さん、おはようございます。校長の博田です。
第２学期は本日で終了し、これから冬休みが始まります。この第２学期を振り返ると、全年次同時開催の翔陽祭や２年次生の海外修学旅行など大きな学校行事に皆さんが懸命に取り組んでいる姿に私は感動しました。３年次生の皆さんの多くは、いよいよこれから進路決定に向けた追い込みの時期を迎えます。また１・２年次生の皆さんは、今年１年間を振り返り、「来年はこれを実現したい」と目標を明確にして新しい年を迎えてください。

さて私は皆さんがこれから長い人生を生きていく中で信頼される人になってほしいと願っています。今日はこの「信頼される」ということをテーマにお話をしたいと思いますが、この「信頼される」ということの前段階として、少し逆説的ですが「叱られる」ということについてまずお話しします。

私の経験上、結論から言うと、「人は叱られるうちが花」です。誰でも「叱られる」のはイヤなことですが、自分のためを思って叱ってもらえるのは、ある意味とても幸せなことだと思ってください。人を叱るのは実はとても難しく、とても気を遣う行為で、すごく疲れることです。それでもあなたのことを思って、心から叱ってくれる人はあなたにとってすごく大切な人です。大人になると、本当に叱られなくなります。ある人は「すべて自分が正しい」と過信します。またある人は「これでいいのかな？」と自分に自信が持てなくなります。そういう意味で大人には「自律」と「責任」が求められるのです。高校生である皆さんは、大人一歩手前の年代です。今叱られることがあれば、その環境に感謝し、いずれは自律心と責任感を持って次の世代の若者を引っ張っていくことができる立派な大人に成長してほしいと私は願っています。

さて、それでは本題の「信頼される」ことについてです。皆さんは自分が人から信頼されていると思っていますか？　信頼を得るには特別なことは必要ありません。例えば約束を守るとか、自分のやるべき事をやるという当たり前のことを続けることで信頼は生まれます。そしてもう１つ、それは人に迷惑をかけないことです。人が嫌がることはしないで、人が喜ぶことをするのです。そうするといつの間にか人から信頼という宝物をもらえるのです。皆さんは約束や役割を果たすことをしないで、先生や親から叱られたことはありませんか？　それは人からの信頼を失うことをしてはいけないという愛情からきている叱りなのです。私は叱られることと褒められることは同じだと思っています。一番悲しいことは褒められも叱られもせずに無視されることです。先ほどもお話ししましたが、大人になってしまうとほとんど誰からも叱られることはありません。とても悲しい事ですが、自分が気づかないうちに人からの信頼を失っていく人も多いのです。つまり、「叱られる」ということは信頼されている証拠であり、「信頼される」ことへの第一歩と言えるでしょう。

私もこれまで多くの場面で叱られてきました。また教師として生徒を叱ってきました。叱る時は、その生徒に人としての生き方を本当に分かってもらいたいとの願いを持って真剣に向き合ってきました。本校の先生方も皆さんに早く自立してほしいという願いを持って、愛情を込めて皆さんを叱っています。皆さんもこれまでも叱られた経験を振り返って、叱られたことの背景にある願いについて考えてみてください。また叱られた時には、叱られたことの意味を真剣に考え、これからの学校生活に生かしてください。そうすることで、しっかりした考え方や生き方ができるようになることを願っています。

ところで私はこの１２月に、松任谷由実さん、そうユーミンのコンサートを原宿の代々木第一体育館に聴きに行き、とても感動して帰ってきました。ユーミンは昨年デビュー50周年を迎え、来年70歳を迎えますが、そのパワー溢れるステージに私は圧倒されました。今も人気は衰えず、1970年代から2020年代まで6年代連続でアルバム1位となる前人未到の記録を打ち立て、昨年は政府から文化功労者に選ばれるなど日本を代表するアーティストの一人です。またユーミンのお母様、荒井芳枝さんは創業100年を超える八王子の老舗呉服店の経営者でしたので、ここ八王子にもゆかりのあるミュージシャンです。

その松任谷由実さんがご結婚される前、荒井由実さんだった頃の曲に「卒業写真」という名曲があります。皆さんもどこかで聴いたことがあるかもしれません。私も大好きな曲ですが、歌詞の中に「人ごみに流されて、変わっていく私を、あなたは時々、遠くで叱って」というフレーズが出てきます。社会のさまざまな荒波にもまれる中で、主人公の女性は自分の変化を当然のこととして捉えきれずに、「流されている」と感じています。意志を持って変化しているのではなく、ずるずると変化させられていると思っているらしく、少し罪悪感を持っています。しかし、悲しいことがある時に開く卒業アルバムの中で優しい目をしている「あの人」という男性は変わっていません。写真なのだから当たり前のことですが、おそらく写真を撮影した当時の「私」も、彼と同じような考えや思いを持っていたのでしょう。しかし「私」は、その「あの人と私」の世界を今、裏切りつつあるわけです。だから「叱って」ほしいというわけです。叱られることで、「許されたい」ということなのだと思います。「叱られる」ということをとても肯定的にとらえている素敵な歌だと思います。先ほどお話しした話にも通じますが、皆さんも「叱られる」ということを少し違った角度から肯定的に捉えてみてはいかがでしょうか？

今日は「叱られること」が「信頼されること」への第一歩であり、これからは肯定的に捉えてみましょうというお話をしました。

最後に気持ちのいいニュースを一つご紹介します。本校の生徒が今年１０月に高尾駅でけがをした人を救助したことに感謝したいとおっしゃる方が先日わざわざ来校されました。その生徒は名前を名乗らなかったそうですが、私はこの知らせを聞いて大変嬉しく思うとともに、本校生徒の皆さんを誇りに思う気持ちが強まりました。本当にありがとうございます。

それでは、これからの冬休みを有意義に過ごされるよう期待して、私の話を終わります。新年に元気にお会いしましょう。